

受け継がれる郷のこころ

六ツ美北部学区

MUTSUMIHOKUBU



六ツ美北部学区のイベント

クリーンアップ事業

毎年11月に学区住民で清掃活動を行っています。大人や子ども、学校の先生など400~500人ほどが集まり、町ごとに分かれて道路や空地、農道、堤防などを掃除します。この活動を通じて、自然環境の保護や美化意識の向上を計り、住民同士のふれあいの場にもなっています。



子ども祭り

毎年11月第4日曜日に「子ども祭り」を行っています。大勢の子どもたちとお父さんお母さんたち、学区の住民が参加します。町内ごとに手作りのゲームを用意し、順番に移動しながら進みます。屋台やツイストパン作りもあり、楽しいイベントが目白押し。親子や地域のふれあいに欠かせない大切な行事です。



編集後記

「岡崎まちものがたり」の編集は、当該年度の各町総代を中心に行いました。可能な限り正確に記載するため、関係者の方々にお話を聞き、多くの資料を調べてまとめました。写真や資料を快く提供して下さったみなさまに心より御礼申し上げます。

〔作成委員会〕 柴田年紀 / 太田幸夫 / 成瀬洋二 / 柴田正光 / 鈴木清治 / 清水澄夫 / 鈴木康男 / 本田光正
〔表紙写真〕 犬尾神社の大織 (2016年10月撮影：酒井 正)

〔参考資料〕 新編岡崎市史 / 六ツ美村誌 / 六ツ美北部小学校100周年記念誌



1 田畑が広がっていた昭和23年の六ツ美村。左上に矢作川、右端に占部川が流れる



2 昭和40年頃の六ツ美北部小学校



3 郊外型店舗が並び、県道桜井岡崎線



4 占部川に架かっていた郡界橋。碧海郡と額田郡の境界にあった



5 改修工事が完了した占部川

農業中心の町から商業・住宅地へ

六ツ美北部学区のなりたち

一九〇六年 ■ 明治 39

一九〇八年 ■ 明治 41

一九三八年 ■ 昭和 13

一九五八年 ■ 昭和 33

一九六〇年 ■ 昭和 35

一九六二年 ■ 昭和 37

一九六七年 ■ 昭和 42

一九七一年 ■ 昭和 46

一九七七年 ■ 昭和 52

一九八一年 ■ 昭和 56

一九八五年 ■ 昭和 60

一九八六年 ■ 昭和 61

一九八七年 ■ 昭和 62

一九八八年 ■ 昭和 63

一九八九年 ■ 平成 1

一九九一年 ■ 平成 3

一九九四年 ■ 平成 6

一九九五年 ■ 平成 7

一九九七年 ■ 平成 9

一九九九年 ■ 平成 11

二〇〇二年 ■ 平成 14

二〇〇三年 ■ 平成 15

二〇〇六年 ■ 平成 18

二〇〇七年 ■ 平成 19

二〇〇八年 ■ 平成 20

二〇一〇年 ■ 平成 22

二〇一四年 ■ 平成 26

二〇一六年 ■ 平成 28

碧海郡六ツ美村が誕生：1

六ツ美第二尋常小学校（現在の六ツ美北部小学校）が開校

占部用水が完成

町制施行で碧海郡六ツ美町となる

六ツ美地区の土地改良が完成

六ツ美町が岡崎市に合併する

六ツ美北部小学校と改称：2

市営住宅土井荘が完成

六ツ美北部小学校の北舎西校舎が新築

学区の上和田町が城南学区に編入

土井町公民館が開館

六ツ美北部学区市民ホームが開館

愛知県中央青果株式会社・岡崎地方卸売市場（岡崎市内3市場）が土井町に統合移転される

第一回六ツ美北部学区文化展が開催

牧御堂歩道橋が完成

六ツ美北部学区こどもの家が完成

県道293号桜井岡崎線が供用開始（前年に一部開通）：3

六ツ美北部学区こどもの家が完成

毘沙門天のホソバ、犬尾神社の大けやきがふるさとの名木に選定

井内町公民館、土井町民会館が開館

県道78号安城幸田線の一部が供用開始

学区の法性寺町・赤渋町・中之郷町・宮地町が六ツ美西部学区に分離

下和田町公民館、野畑町公民館が開館

市道和田1号線が供用開始

市道井内新村線の一部が供用開始

牧御堂町公民館が開館

県道78号安城幸田線が全面供用開始

「平成20年8月末豪雨」で占部川が越水し、大きな被害を受ける

市営土井住宅が完成

郡界橋が新橋建設のため撤去：4

占部川の改修工事了：5

その後、昭和49年に東校舎が増築され、56年に南舎の2階建てが完成。59年に現在の校舎になりました



以降、毎年1月に六ツ美北部小学校体育館で行われています。みなさん、見に来てください！



犬尾神社の大けやき。樹高18.0m、幹回り2.7m、根回り4.5m、枝張り18.0mの美しい樹姿



六ツ美北部学区のあゆみ

明治39年に糟海村（井内・牧御堂・土井）、占部村（下和田・野畑）、合歓木村、青野村、中井村、中島村の6村が合併して六ツ美村が誕生しました。

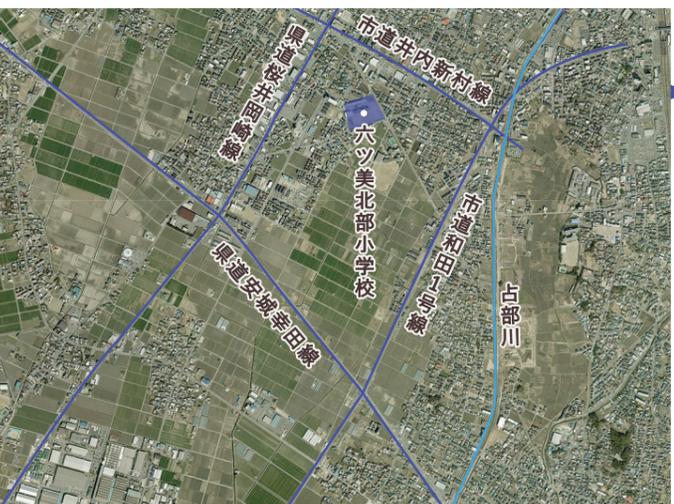
矢作川左岸流域に位置する六ツ美北部学区は肥沃な土地で、道端にはツクシやタンポポが咲き、古くから稲作が盛んに行われる田園地帯でした。裏作には菜種が栽培されました。

特に昭和初期から30年代までは全国有数の生産地として知られ「六ツ美の菜種か、菜種の六ツ美か」といわれるほどでした。

昭和40年代に入ると岡崎市内の各所に団地が建設。県道や市道が整備され始めると都市化の波が急速に押し寄せ、農業中心の地から商業地、住宅地へと生まれ変わりました。（：6）それに伴い人口が急増し、昭和52年（1977）に上和田町が城南学区に、平成9年（1997）に法性寺町・赤

渋町・中之郷町・宮地町の4町が六ツ美西部学区へ分離されました。現在の六ツ美北部学区は井内町、牧御堂町、土井町、下和田町、野畑町の5町で構成されています。

六ツ美北部には千年以上続く犬尾神社の祭りや、ふるさとの名木など、先人たちが残してきた財産を大切にしています。多くの戦国武将を輩出した場所でもあり、町名などにその名残が見られます。これからも故郷の歴史や祭り、受け継がれてきた郷の心を、未来の子どもたちへ伝えていきます。



6 新しい道が井桁状に開通した六ツ美北部学区。平成24年撮影

DATA



□人	11,878人
□男性	6,122人
□女性	5,756人
□世帯数	4,771世帯
□面積	2.84km ²
[2016年7月現在]	

新しい道がどんどん出来てきた！ まちものがたりマップ

六ツ美北部学区は昭和60年代から新しい道が井桁状に開通しました。特に県道桜井岡崎線、市道井内新村線沿線はスーパーやショップ、郊外型の飲食店が建ち並び、風景が一変しています。



A 薬師堂
牧御堂という町名の由来になった御堂。毎日、各戸が交替で「おぼこさん(おぶくさん・仏飯)」を供え、大切にしている



B 井内八幡宮
神龜2年(725)の創建、久世の殿様ゆかりの地。久世という字名が今も使われている



C 埋葬地の森
占部川の左岸にある小さな森。戦前、小さな子どもが亡くなると土に埋めて葬った。犬や猫、ヤギなどの動物も一緒に眠っている



D 犬神社
農事の守護神を祀る社。御守護符(ごしゅごふ)も授与している。毎年10月第3日曜日に秋の例大祭が行われる



E 犬尾神社
千余年の歴史を誇る古社。境内には遊具もあり、子どもたちの遊び場になっている



F 毘沙門天のホソバ
樹齢200年以上のホソバ。何か起こると天狗が降りてくると伝わる



G 常楽寺
かつては下和田町と坂左右町の境界付近にあったが、いつの頃から下和田城の跡地と伝わる現在地に移転



◁土井町城屋敷の住宅街の一角に、本多秀清の墓がある



▷社宮司社の境内に建つ「土井一族発祥の地」



土井城のイメージ図(六ツ美歴史民俗資料館より)



H 市営土井住宅
平成22年に2階建てから5階建ての10棟にリニューアル。六ツ美北保育園や土井公園も併設し、子育て世代に人気

COLUMN 江戸時代のスゴイ人！

土井城を築き、岡崎城主を務めた本多一族…J

土井町に城屋敷という字名があります。ここはかつて土井城が築かれた場所で、本多一族が支配していました。三代信重が土井城を築き、五代康重は多くの武功を治めて岡崎城主に。その後も三代続けて岡崎城主を務めました。

本多氏系図

- 初代 秀清 松平長親より土井郷を給わる
- 二代 清重
- 三代 信重 土井城を築く
- 四代 広孝 田原城主
- 五代 康重 岡崎城主として入城
- 六代 康紀 城郭を大改築し天守閣を築く
- 七代 忠利 岡崎城の土塁を石垣にする

COLUMN
明治から昭和初期に活躍したスゴイ人！
茶華道を極めた羽根田夫妻

井内に住んでいた華道の先生、羽根田重太郎さんは13歳で池の坊に入門し、その道を極めること50余年。家元最高位の総華督を取得し、大勢の弟子を育てました。夫人の常得さんも茶道をたしなみ、教育者として熱心に指導されました。

昭和9年(1934)、数年後に金婚式を迎える羽根田夫妻を祝福しようと、井内の人びとが発起人となり、寿碑を建立。同年3月には除幕式を兼ねた祝賀会が盛大に行われ、井内の31軒の家々が生け花の展示会場になりました。夫妻が村中の人びとに慕われていたことが分かります。

羽根田夫妻の寿碑が二つ並び



六ツ美北部学区の祭り

必見!



さあ、持ち上げるぞ〜!

いいぞ、その調子だ、あともう少し



竿立ては幟竿を支えるのに必須



みんなで担いで、よいしょこらしょ!



木造の小屋から幟竿を取り出すのも一苦労



境内では浦安の舞を奉納

撮影：酒井正

犬尾神社の大幟

犬尾神社の秋の例大祭は大幟を立てることから始まります。大幟の幟竿の長さは約20m、直径は最も太いところで約27cm、樹高18mの神木、大ケヤキよりも高く、近隣では見られない大きさです。

例大祭の前日、氏子たちが力を合わせて幟立てを行います。ロープで縛って左右から引き、幟竿が倒れないよう固定します。この時に欠かせないのが、「竿立て」と呼ばれる道具。竿立てで支えながら、慎重に立てていきます。幟が上がれば祭りの準備は完了。例大祭当日は神輿渡御を行い、浦安の舞を奉納します。

日程 犬尾神社の例大祭
10月第4日曜日

井内八幡宮と久世の殿様

井内八幡宮の北、久世と呼ばれる場所に、久世平四郎長宣と呼ばれる殿様が住んでいました。長宣は家康公に仕えていましたが、一向一揆が起ると家康公に背いて一揆軍に加わります。しかし、長宣の子、廣宣は16歳の時に家康公に赦面され、その後は数々の武功を挙げ、五千石の禄をもらうまでになりました。

秋の例大祭では神輿道中を行い、久世の殿様をはじめ、天狗や役行者、獅子舞、子どもたちも行列に加わり、町中を賑やかに練り歩きます。社殿では舞姫が浦安の舞を奉納します。

日程 井内八幡宮の例大祭
10月第1日曜日



中央が久世の殿様。毎年、厄年会から選ばれる

行列の先頭を天狗が歩く



子どもの獅子舞

趣向を凝らした子どもの神輿



井内八幡太鼓の奉納演奏

犬頭伝説

下和田町の犬尾神社に対して、ここから北へ約2kmの宮地町には犬頭神社があります。この二つの神社の名は、上和田城主宇都宮泰藤（後に大久保と改姓）と白い犬が登場する「犬頭伝説」に由来しています。主人の宇都宮に大蛇の危険を知らせようと吠えた犬は、無礼者と首をはねられてしまいます。その時、犬の首は大蛇の喉に噛み付き、尾は飛んでいきました。頭部は犬頭神社に、尾は犬尾神社に祀られているといわれています。

犬尾神社の幟竿

祭礼の幟竿は、昭和51年4月4日、旧額田町鳥川の山から樹齢80年、66尺（約20m）の神木を切り出したものです。リヤカーに乗せて菘川、馬頭（現在の美合町）、上地を通して、約4時間かけて神社まで運び、当日はマラソン大会のように沿道からたくさんの声援が送られました。



撮影：小嶋勝太郎